

# 国語

## 中学2年

### 本書の構成と特色

#### ■ 全体の構成

本書は、文章のジャンルの違いによって各単元に分けてあります。論説文は、入試の出題率も高く、また、国語の論理的な理解に役立つという理由から、特に重要な分野と考え、単元数を多くとってあります。

#### ■ 単元の構成

一つの単元は、**学習の要点**⇒**確認問題**⇒**練成問題**の順に構成してあります。なお、学習の要点は、韻文・古典・客観事項の単元に配してあります。

◆ **学習の要点**…問題を解く際、重要と考えられる実用的な知識を確認できるようにしてあります。

◆ **確認問題・練成問題**…基本的な問題の量、素材と問題の難易度により、確認問題・練成問題とに分けてあります。練成問題は、入試に対応できる難易度を持たせてあります。

#### ■ Check & Try

巻頭の「**事前に Check!**」は、基本事項を簡単におさらいできる問題で構成してあります。定着の度合いを確認することができます。

巻末の「**最後に Try!**」では、基本問題を中心にしながら、やや応用的な問題もふくめて構成してあります。本書で学習した成果を確認することができます。定期テストの準備に最適です。

### CONTENTS

	学習日		学習日
事前に Check! .....	2	6 詩・短歌・俳句 .....	26
1 漢字・語句 .....	6	7 随筆 .....	30
2 小説(1) .....	10	8 古典 .....	34
3 小説(2) .....	14	9 文法 .....	38
4 論説文(1) .....	18	10 総合問題 .....	41
5 論説文(2) .....	22	最後に Try! .....	45



事前に  
Check!

# どうまで身にこたえてくるか確かめよう！

次のそれぞれの問いに答えなさい。

## 1 〈漢字の成り立ち〉

□(1) 漢字の成り立ちについて説明した次の文章の □(1) □(4) に入るふさわしいことばを、それぞれ漢字で答えなさい。

〈漢字の成り立ちには大きく分けて四つの種類があります。「木」などの物の形をかたどって表した文字を □(1) 文字、「一」などの形がない物事を点や線で表した文字を □(2) 文字、「男」などの二つ以上の文字を組み合わせて新しい意味を表した文字を □(3) 文字、「線」などの意味を表す文字と音を表す文字を組み合わせた文字を □(4) 文字と言います。〉

□(1) 一  
□(2) 二  
□(3) 三  
□(4) 四

□(2) 次のそれぞれの漢字の成り立ちを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

□(1) 手	〔	〕	□(2) 美	〔	〕
□(3) 想	〔	〕	□(4) 信	〔	〕
□(5) 岩	〔	〕	□(6) 下	〔	〕
ア 象形文字					
イ 指事文字					
ウ 会意文字					
エ 形声文字					

## 2 〈漢字の部首〉

□(1) 次のそれぞれの漢字の部首の名前として最も適切なものをあとから選び、記号で答えなさい。

□(1) 情	〔	〕	□(2) 雑	〔	〕
□(3) 側	〔	〕	□(4) 蒸	〔	〕
□(5) 育	〔	〕	□(6) 利	〔	〕
□(7) 登	〔	〕	□(8) 夜	〔	〕
□(9) 教	〔	〕	□(10) 複	〔	〕
ア のぎへん			イ りっしんべん		
ウ にんべん			エ にく		
オ れっか			カ ひとあし		
キ ふるとり			ク りつとう		
ケ のぶん			コ ゆう(ゆうべ)		
サ はつがしら			シ くさかんむり		
ス きへん			セ ころもへん		

□(2) 次のそれぞれの漢字の部首の名前を書いて答えなさい。

□(1) 置	〔	〕	□(2) 限	〔	〕
□(3) 無	〔	〕	□(4) 質	〔	〕
□(5) 次	〔	〕	□(6) 社	〔	〕
□(7) 道	〔	〕	□(8) 国	〔	〕
□(9) 牧	〔	〕	□(10) 額	〔	〕

3 〈熟語の読み方〉〈熟語の組み立て〉

熟語の読み方と組み立てについて学習しましょう。

まず、漢字の読み方には、音読みと訓読みの二種類があります。ですから、二字熟語の読み方には、

- A 音読み + 音読み
- B 訓読み + 訓読み
- C 音読み + 訓読み
- D 訓読み + 音読み

の四通りの組み合わせがありますことになりす。

これらの読み方のうち、Cの「音読み + 訓読み」の読み方のことを「<sup>①</sup>重箱読み」といいます。これは、重箱を「ジユウ・ばこ」(カタカナは音読み、<sup>10</sup>ひらがなは訓読み)と読むことからきています。また、Dの「訓読み + 音読み」の読み方のことを「<sup>②</sup>湯桶読み」といいます。これも、湯桶(飲むためのお湯を入れておく器)を「ゆ・トウ」と読むことから名付けられています。

次に、<sup>③</sup>熟語の組み立てには、似た意味の字を重ねたものや反対の意味の字を重ねたもの、下から読むと意味がわかるものなど、いろいろな組み立てがあります。熟語の組み立てを考えるとときには、それぞれの漢字の意味から考えることが大切です。

□(1) — 線①「重箱読み」、②「湯桶読み」をする熟語を次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 本屋
  - イ 店番
  - ウ 仲間
  - エ 食塩
- (1) ( ) □(2) ( )

5

□(2) — 線③「熟語の組み立て」とありますが、次の①～⑥の熟語の組み立ての説明として適切なものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 断続 ( ) □② 急流 ( )
- ③ 未開 ( ) □④ 決意 ( )
- ⑤ 日銀 ( ) □⑥ 寒冷 ( )

ア 似た意味の字を重ねている組み立て。

イ 反対の意味の字や対になる字を重ねている組み立て。

ウ 上の字が下の字を修飾しゅうしょくしている組み立て。

エ 下の字から上の字に返って読むと意味がわかる組み立て。

オ 上の字が下の字の意味を打ち消している組み立て。

カ 長い熟語を省略している組み立て。

キ 上の字が主語、下の字が述語になっている組み立て。

4 〈熟語の読み方〉

□(1) 次のそれぞれの二字熟語の読み方にあてはまるものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① 射的 ( ) □② 雨具 ( )
  - ③ 古株 ( ) □④ 絵筆 ( )
- ア 上の字も下の字も音読み。  
イ 上の字も下の字も訓読み。  
ウ 上の字は音読み、下の字は訓読み。  
エ 上の字は訓読み、下の字は音読み。

5 〈語句(ことわざ・慣用句)〉

(1) 次の①～⑥のことわざが( )の意味になるように、に入る最も適切なことばを、それぞれひらがなで書いて答えなさい。

①  A  B 捕らさず

( 〓二つのものを同時に得ようとして、両方とも逃すこと)

A ( )  B ( )

②  A が  B を生む

( 〓ごく普通の親が、優れた能力を持つ子を生むこと)

A ( )  B ( )

③  A の目  B の目

( 〓しつこくものを探し出そうとするときの鋭い目つき)

A ( )  B ( )

④  A は千年、 B は万年

( 〓寿命が長く、めでたいこと)

A ( )  B ( )

⑤  A に生まれた  B

( 〓恐ろしさで身がすくみ、動けなくなること)

A ( )  B ( )

⑥  A で  B を釣る

( 〓わずかな労力で大きな利益を得ること)

A ( )  B ( )

(2) 次の①～⑧の意味を持つ慣用句を、Aあとから一つずつ選び、記号で答え、Bその慣用句のに入る身体の一部を表すことばを書いて答えなさい。

① 安心する。

② 対等の地位に立つ。

③ 何もできないでいる。

④ 話などの途中で邪魔じまをする。

⑤ 悪い行いをきっぱりやめる。

⑥ 自立できず、親に養やしなわれる。

⑦ とても恥ずかしい思いをする。

⑧ 出し抜いて、あつと言わせる。

ア  を洗う  
 イ  を折る  
 ウ  を並べる  
 エ  を明かす  
 オ  をかじる  
 カ  をこまねく  
 キ  から火が出る  
 ク  をなでおろす

① A ( )  
 ② A ( )  
 ③ A ( )  
 ④ A ( )  
 ⑤ A ( )  
 ⑥ A ( )  
 ⑦ A ( )  
 ⑧ A ( )

B ( )  
 B ( )  
 B ( )  
 B ( )  
 B ( )  
 B ( )  
 B ( )

6

〈語句(故事成語・四字熟語)〉

□(1) 次の①～⑧の故事成語の意味として最も適切なものを、それぞれあとから選び、記号で答えなさい。

- ① 矛盾 〔 〕 □② 蛇足 〔 〕
- ③ 杞憂きゆう 〔 〕 □④ 四面楚歌しめんそか 〔 〕
- ⑤ 背水の陣 〔 〕 □⑥ 五十歩百歩 〔 〕
- ⑦ 漁夫の利 〔 〕 □⑧ 塞翁が馬さいおうがば 〔 〕

- ア 後に引けないところで決戦する構えをとること。
- イ あれこれ無用の心配をすること。
- ウ 最後に大切な部分に手を加えて仕上げをすること。
- エ 似たり寄ったりであること。
- オ つじつまが合わないこと。
- カ 仲の悪い者同士がいっしょに行動すること。
- キ 二者の争いにつけこんで、第三者が利益を得ること。
- ク 人間の幸不幸が定まりがたいこと。
- ケ 周りを敵に囲まれていること。
- コ 余分なものを付け加えること。

□(2) 次の①～⑧の四字熟語の□に入る漢数字を、それぞれ書いて答えなさい。

- ① 一石□鳥 〔 〕 □② 傍目おかめ□目 〔 〕
- ③ □東三文 〔 〕 □④ □鬼夜行きやこう 〔 〕
- ⑤ 朝三暮□ 〔 〕 □⑥ □里霧中 〔 〕
- ⑦ 七転□倒 〔 〕 □⑧ 一騎当□ 〔 〕

7

〈漢字の読み書き〉

□(1) 次のそれぞれの――線部の漢字の読みをひらがなで書いて答えなさい。

- ① 場の霧囲ふんい気が和む。 〔 〕
- ② いたずらを企くてる。 〔 〕
- ③ 事件の発端はつたんを調べる。 〔 〕
- ④ 取り引きの仲介なこうだいを行う。 〔 〕
- ⑤ 丈だけが短いコート。 〔 〕
- ⑥ 小さなバッグを携たづえる。 〔 〕
- ⑦ 余暇よげまの過あやごし方を考える。 〔 〕
- ⑧ 資料しりょうを詳細しんじゆに調べる。 〔 〕
- ⑨ パソコンを巧たくみみにあつかう。 〔 〕
- ⑩ 事態じたいを把握はくわくする。 〔 〕

□(2) 次のそれぞれの――線部のカタカナを漢字で書いて答えなさい。

- ① 文書ぶんしよにシヨメイする。 〔 〕
- ② 父母ふぼをウヤマう。 〔 〕
- ③ 頭痛づうとうによくキク薬。 〔 〕
- ④ 体育館たいいくかんに席せきをモウける。 〔 〕
- ⑤ 家いへに荷物にもつがトドく。 〔 〕
- ⑥ 納税なつぜいは国民こくみんのギムだ。 〔 〕
- ⑦ 作業計画さぎやくけいかくについてケントウする。 〔 〕
- ⑧ 電気店でんきでんをイトナむ。 〔 〕
- ⑨ 借金かきをヘンサイする。 〔 〕
- ⑩ セイジツせいじつな人柄。 〔 〕

# 2

## 小説 (1)

### 確認問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

SAMPLE

〈畑正憲「ムツゴロウの動物王国」より〉

□(1) □①・□②に入る最も適切なことばをそれぞれ次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア しんしん イ ぼつぼつ ウ かんかん  
 エ びゅうびゅう オ ちんちん

①
②

□(2) — 線A「□が降っても」、B「もの□ではない」の□に入り、慣用句を完成させる一字をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

- ア 敵 イ 矢 ウ 数  
 エ 槍 オ 量 カ 雪

A
B

□(3) — 線①「新築の家に住むこと三日で、情けなくて涙が出そうになっ  
 た」とありますが、「私」は「新築の家」をどんなものだと感じ、「情けな  
 く」なったのですか。それを表したことを本文中から十二字で書き抜いて  
 答えなさい。


□(4) — 線②「時計のハリを逆に回したらいけないのだよ」とありますが、  
 これは「私」のどんな気持ちを表していますか。最も適切なものを次から  
 選び、記号で答えなさい。

- ア 昼と夜が逆転したような生活はすべきでない。  
 イ 文明人には、原始的な生活はやはり無理だった。  
 ウ 自分たちの望まない生活をあえてすることはない。  
 エ 世の中の流れに逆らおうとしても、許されないのだ。

--

□(5) — 線③「北斗君に強引に押し付けた」ものとは何ですか。それを表し

たことばを本文中から十一字で書き抜いて答えなさい。


□(6) ※に入る最も適切な一文を次から選び、記号で答えなさい。  
 ア それで満足だ。

- イ それが私の望みだ。  
 ウ それではさすがに困る。

エ それは、やはり残念でならない。

--

□(7) — 線④「無人島で暮らしたこと」とありますが、「無人島」での「暮  
 らしぶり」を「私」はどのように表していますか。それを表したことばを  
 ここより前の本文中から六字で書き抜いて答えなさい。


□(8) — 線⑤「ヒゲはベッドを馬小屋に持ちこんだ」とありますが、「ヒ  
 ゲ」がそのような行動をとったのは、「馬」に対するどのような思いがあ  
 ったからですか。「〜という思い。」という形で、二十五字以内（句読点も  
 字数に数えます）で答えなさい。

い							
う							
思	い	。					
							と

□(9) — 線⑥「こうでなくてはならない」とありますが、「私」はどういう生活  
 をしたいと考えていますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 自然や動物と一体になった生活。  
 イ 他人を避け、一人だけで暮らす生活。  
 ウ 文明と自然を調和させ、両者の長所を取り入れた生活。  
 エ 肉体の限界ぎりぎりの厳しい環境の中での生活。

--

●  
**練成問題**

- ① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

SAMPLE



〔魯迅〕「小さなできごと」(竹内好訳)より

(注) 人力車⇨人を乗せ、車夫が引いて走る二輪車。

車夫⇨人力車を引く職業の人。車引き。

卑小⇨ちっぽけで、みすぼらしい様子。

□(1) — 線①「ひどい北風」、②「小やみ」、③「微風」、④「風はまったく

やんでいた」とありますが、それぞれの風の描写の場面で、「わたし」の心情はどうでしたか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ①不 快 ↓ ②あせり ↓ ③安 心 ↓ ④自 省

イ ①あせり ↓ ②安 心 ↓ ③不 快 ↓ ④自 省

ウ ①あせり ↓ ②不 快 ↓ ③自 省 ↓ ④安 心

エ ①不 快 ↓ ②安 心 ↓ ③自 省 ↓ ④あせり

□(2) — 線①「わたしは、その老婆がけがをしたとは思えなかった」とあり

ますが、「わたし」はなぜ「老婆がけがをした」と思わなかったのですか。その理由を、「老婆」ということばを必ず用いて、「〜から。」という形で、

二十字以内(句読点も字数に数えます)で答えなさい。
